

スト
マコンクリート
ひび割れ抑制技術学ぶ
インフラ
石川BP橋下部工見学

ふくしまインフラ長寿
命化研究会施工部会（部
会長 宮井隆利会津土建
執行役員技術管理部長）



工法の説明を受ける参加
者

はこのほど、県が整備を
進める主要地方道いわき
石川線・石川バイパス4
号橋下部工の施工現場
で、今年度第2回見学会
を開いた。マスコンクリ
ート構造物の温度ひび割
れ抑制技術「NDリター
ダー工法」で施工した橋
台を見学し、同工法につ
いての理解を深めた。

マスコンクリートは、
壁や橋梁下部工など質
量・体積が大きなコンク
リート構造物。コンクリ
ートを打設する際、施工
後の温度降下に伴い収縮
変形が発生するが、地盤

や既設コンクリート等
（拘束体）により底部分
が固定される場合、自由
に収縮できない状況とな
り、ひび割れが発生する。
同工法は、拘束体と新
設するコンクリートの間
に、水和熱抑制型超遅延
材「NDリターダー」を
添加したコンクリートを
打設する。この層は硬化
速度が遅いため、新設す
るコンクリートは自由な
収縮変形が可能となり、
ひび割れが抑制できる。

見学会に先立ち、施工
者の藤田建設工業本社
（棚倉町）で同工法の説
明会を開いた。会員ら約
30人が参加。同研究会長
の岩城一郎日本大学工学
部土木学科教授は「施工
期で工事を進めている。

における品質確保は大切
だ。知識を増やし、広い
視野でさまざまな工法が
あることを学んでほしい」、江田忠藤田建設工
業常務取締役は「コンク
リートのクラック対応に
苦労していると思う。見
学会を通して研さんを積
み、今後に役立ててほし
い」とあいさつした。

同工法を開発した日本
コンクリート技術の藤田
佳男社長が、施工事例を
挙げながら性能や効果に
ついて説明した。参加者
は施工現場で、同工法を
採用して完成した4号橋
の橋台（A2）を見学し
た。A1も同様に施工し
ており、30年2月20日工
期で工事を進めている。

工法の説明を受ける参加者



現場見学の様子

